

第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

高齢女性膀胱炎に伴う頻尿、 排尿痛などに対する 猪苓湯合四物湯の効果について

独立行政法人国立病院機構神戸医療センター 泌尿器科
大岡 均至

【目的】 高齢女性（閉経後）の急性単純性膀胱炎に対して、セフトロキムプロキセチル（パナン®; CPDX-PR）単独投与に加え猪苓湯、または猪苓湯合四物湯投与による、治療効果につき検討する。

【対象と方法】 高齢急性単純性膀胱炎症例 90 例（年齢；54-78、平均 68.8 歳）に対し以下の 3 群にランダムに 30 症例ずつを振り分けた。1) ; CPDX-PR100mg、朝・夕 2 回、1 週間投与（A 群）、2) ; 1) に加え猪苓湯 2.5gr. x 3 x 4 週間投与（B 群）、3) ; 1) に加え猪苓湯合四物湯 2.5gr. x 3 x 4 週間投与（C 群）。この 90 例の泌尿器科的疾患の既往は年間 1 回までの膀胱炎罹患のみで、尿路感染症に影響する泌尿器科・他科疾患の合併は認めなかった。上記 3 群につき尿培養所見（初診時のみ）、治療開始前、開始後 1・4・8 週間の自覚症状の変化（頻尿、尿意切迫感、排尿時痛等の VAS、0；症状なし-10；症状大変強い）と他覚所見（検尿所見 [中間尿中白血球]）につき検討した。治療開始前の各群の年齢、自覚症状、他覚所見には有意差を認めなかった。治療開始 1 週間以後、軽度の自覚症状の残存や膿尿（WBC<5-10/hpf）を認めた場合に抗菌薬の追加投与の希望があれば投薬予定であったが、全症例経過観察を希望したため観察期間中の脱落症例はなかった。

【結果】 培養結果は、E.coli（77 株、感受性）、E.coli（5 株、LVFX のみ耐性）、K.pneumoniae（6 株、感受性）、並びに P.mirabilis, S.marcescens（各 1 株、感受性）であり、すべての株が CPDX-PR に感受性であった。

各治療群の経時的な自覚症状、他覚所見の変化には統計学的有意差は認めなかった（ANOVA）。経時的な自覚症状の改善率に関しては、1 週後；21/30（70.0%）、18/30（60.0%）、23/30（76.7%）（A,B,C 群、以下同様）、4 週後；23/30（76.7%）、22/30（73.3%）、28/30（93.3%）、8 週後；22/30（73.3%）、23/30（76.7%）、26/30（86.7%）、他覚所見の改善率に関しては、1 週後；22/30（73.3%）、24/30（80.0%）、27/30（90.0%）、4 週後；25/30（83.3%）、26/30（86.7%）、28/30（93.3%）、8 週後；23/30（76.7%）、24/30（80.0%）、27/30（90.0%）といずれの観察ポイントにおいても C 群が良好である傾向を認めた。特に、8 週間後においても急性膀胱炎症状を緩和する傾向が認められた。

【考察】 猪苓湯合四物湯は、少陽病の利湿清熱・滋陰止血作用を有する猪苓湯に補血剤である四物湯を合方した方剤である。高齢急性単純性膀胱炎症例は水熱互結の病態と考えられ、血虚を合併する場合が多いと思われる。四物湯の地黄・芍薬は行気活血の作用を、当帰・川芎は血中の気薬であり養血して血中の気を巡らす。今回の検討では、抗菌薬単独投与と比較して有意な自覚症状・他覚所見の改善効果は認められなかったが、個々の症例に於いては有効な場合もあり併用療法が有効である可能性が示唆された。